

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600647		
法人名	有限会社 グループホーム ゆうゆうてらわき		
事業所名	グループホーム ゆうゆうてらわき		
所在地	〒858-0313 長崎県五島市松山町513-1		
自己評価作成日	平成22年1月13日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>誕生会や行事等の食事作りに力を入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>五島の中心部にある平屋造りで、周辺の民家に溶け込んでいるホームである。隣接して、面会に遠方から来られた家族や、入居者が終末期を迎えられた時に、家族や職員が利用できる宿泊施設が完備されている。入居者が重度化の傾向にあるが、24時間対応の医療連携を持たれており、看取りの支援も約束されている。地域住民からの野菜の差し入れは日常化しており、職員とも顔見知りの関係で、何時も気軽に声を掛け合え、笑顔あふれる職員が自慢のホームである。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて職員全員で理念を唱え、理念を意識しながら取り組んでいる。	『家庭的な雰囲気の中で その人らしく 笑顔あふれる ゆうゆうてらわき』と理念を掲げられ、職員は理念の具現化として「ありがとうを大切に」をもっとうにして、日々の介護を実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、学校、地域の行事などに積極的に参加している。日常的に散歩や外出され地域の人達と挨拶を交わしたり、事業所の催しがある時には近隣に住む人達に声掛けをし、ふれあう機会を多く持つようにしている。	町内の清掃作業には、職員や希望する入居者が参加されている。地域行事や近隣の保育園、小中学校の運動会に招待されたり、日々の生活で地域住民に声をかけたり挨拶などされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域の様々な研修会に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極に行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や勘案事項について、その経過を報告し合い、1つ1つ積み上げていくようにしている。之までの結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	月2回運営推進会議を開催されている。市の担当職員は毎回参加されている。ホームの報告以外に、食事やホーム内の見学など、堅苦しい内容にならないように工夫をされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズ具体を伝え、連携を深めている。	介護支援専門員による入居者の認定更新時に連絡を取ったり、運営推進会議などで、経営者がホームの現状を伝えるなど、協力体制が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きをもとに勉強会や研修に参加し国が指示している身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の徹底理解を図っている。	身体拘束廃止に関する研修など積極的に取り組まれている。玄関の施錠はなく、どうしても出て行かれる時は見守りや付き添いで納得がいく対応をされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について学ぶ研修には、毎年参加している。対応が必要と思われる利用者がいる場合は、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結び付けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約お結んだり、解約する際は必ず本人家族と面接を行い、十分説明した上で家族の意向を確認している。お互い納得できてから契約、解約の手続きを行うようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話や訪問時、運営推進会議で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等は会議で話し合い、反映されている。	運営に関する意見を聞きだす努力はされているが、なかなか出てこないのが現状である。時々、頂くご意見には、早急に取り組み報告をされている。今後はホーム内の行事参加時に意見を聞くように今後の姿勢を示された。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	職員から意見を言いやすい職場環境(休憩室の確保)を整備されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の疲労やストレスの要因について気配り、勤務時間中にも気分転換出来る休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は、毎月の全体会議で発表してもらい研修報告を全職員が閲覧出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会に参加したり、他のグループホームへの見学や相互研修、事例検討等を通して、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人にあって心身の状態や本人の思いに引き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況のど、経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話お聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人ご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をきめ細かく伝える事で、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていく為の協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理美容院に行き続けている利用者や、毎月1回のミサ(教会)に行っている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	家族訪問時に、本人の友人や知人を連れて来られるなど協力されている。毎週、協会のミサに行っていた方が行けなくなっても、馴染みのシスターが来てくださるなど、支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡と共に情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って、面会にいこうとしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通ができない方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	入居者の担当制をとられているが、他の職員からの情報を共有している。言葉での意思表示をされなくても、細かい仕草や表情などで把握するように努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者について、その人独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を把握し、本人をはじめ、家族や地域の力を借りながら継続的に行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や小さな動作から感じ取り、1日の過ごし方や本人の状態を確認し、記録をするようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	記録の書式を改善し、介護計画と生活記録につながりを持たせ、プランの見直しに活かす工夫をする等、検討して一年かけて現在の記録に落ち着いた。アセスメントが職員全体で検討できるようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は、柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員、民生委員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週の訪問受診をはじめ緊急時の対応を含め24時間の連絡体制を整えている。	かかりつけ医は家族の納得の下に、全員同じ診療所となっている。二週間に一回の往診と週一回訪問看護を受けている。紹介状をもらい病院受診をする時は、家族にも同伴を相談して職員が受診介助をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結ぶ看護師とは、気軽に相談できる関係が築かれており、週1回の健康管理や急変時にも、24時間の連絡体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、週1回は職員が見舞いに行き、家族とも回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、。家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居契約時に、「看取りの指針」を説明し、本人、家族への確認を行い、同意書をとられている。状況に応じて話し合い、書き換えもされている。現在までにホームにおいて看取をされた方は2名いる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力得て、救急手当て蘇生術の研修を実施している。また、夜間時の緊急時対応について、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をえて、年2回の避う難訓練、消火器の使い方などの訓練を実施している。また、地域との協力体制は整えている。	火災想定避難訓練は年二回、消防署立会いの下で行われている。自然災害を想定した訓練や、備蓄に関しても今後行う意向を示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	五島独自の言葉で話す方が親しみを感じられる方が多いが、入居者によって言葉掛けを代えている。尊厳を損なわないように、馴れ合いにならないようにそれぞれの職員が注意しあうように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その合わせた対応を心掛けている。その日の体調をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていたっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え、基本的に本人の意向で決めており職員は見守りや、支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考え、本人の気持ちにそった支援を心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りやおやつ等利用者の好みを尋ねてもはっきり答えられる方は少なく、お手伝いをお願いしても断られるケース多い。大半は、体力、気力の低下が殆どですが、季節感や行事毎に利用者の前向きな意思や気持ちを引き出させるよう努力している。	個別性を重視した対応をされている。下ごしらえに対応できる入居者が減少し、食事介助が必要な方が3名おり、職員が入居者と同じテーブルで食べることも少なくなっている。献立の希望なども取り入れ季節を感じる食事作りをされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、食事量を毎食、チェック表に記載している。利用者の状態に応じて食事形態を工夫し栄養バランスを考え、季節にあった献立を考えている。水分摂取に関しては、個々の思考に合わせて、提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後ケアを行い、嚥下障害による肺炎防止にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パンツ類も本人に合わせて検討している	昼間はトイレ誘導を行い、なるべくトイレでの排泄を大切に工夫されている。留置カテーテルの使用者が2名、夜間のみポータブルトイレを使用されている方が3名おられ、個別に対応されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防については、主治医と相談をしながら対策を考えている。秘薬の服薬、適度な運動、レクリエーションの参加、散歩、飲物の工夫に努めている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が決めるのではなく、その日に利用者に入浴の希望確認している。入浴の時間は決めていたが急な排泄などによる失敗、汚染時には、いつでも入浴できるように支援している	週3回入浴予定をされているが、拒否の方や、清潔保持のためにいつでも入浴できる体制ができています。本人のペースを大切にすることを最優先と認識されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮して、休憩ご取れるよう支援している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動を妨げに っていないか確認している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるように徹底している。処方の変更があった場合は連絡ノートに記録し、特に状態変化の観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野で、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉かけを伝える様にしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や、習慣、希望、季節や地域のその時々状況に応じて一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している	天気が良いときはホーム周囲を散歩するなどの支援がされている。入居者の重度化に伴い、外出支援が困難な面もあるが、日光浴など、なるべく外気に触れる機会を持つよう努められている。	入居者の重度化で外出困難な状況でも、外出の希望を持たれている方への支援を職員間で話し合われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人もいる。自分でお金を支払える方には、お金を渡し買物が出来る様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方には、事務所でかけてもらっている。遠方からの家族から、かかって来ることもあり、そんな時には電話を部屋に持って行き話をしてもらっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で暗く感じるときは、照明で明るくしたり、廊下には、手作りのカレンダーや花を飾ったり、五感を意図的に取り入れる工夫している。	自然の明るさを取り入れた造りになっている。季節の花を職員が持ち寄り、手作りのカレンダーなど廊下に飾ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的なつくりで、全てが視界に入りやすく、多少の圧迫感がある。そのためソファやダイニングテーブル椅子の配置に配慮したり落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染の物など家族と相談しながら生活スタイルに合わせて用意し持ってきて頂き安心して過ごせるような配慮をしている。	居室は広く、クローゼットが全室に2箇所ずつ備え付けになっている。収納スペースが広いので、居室内は整然としており、個人の生活歴が分かるものを飾られ、ゆったりと個性的な居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すり、浴室、トイレ、廊下などの移住環境が適しているか、見直し安全確保と自立への配慮をしている。		